

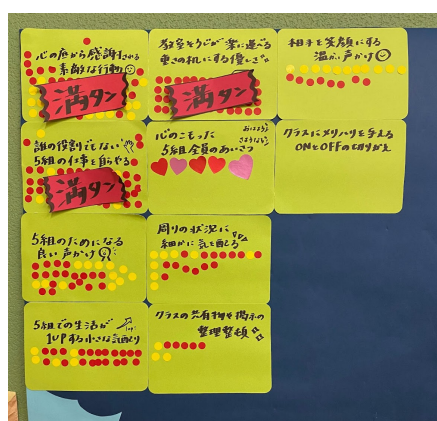
研究の概要

生徒の実態

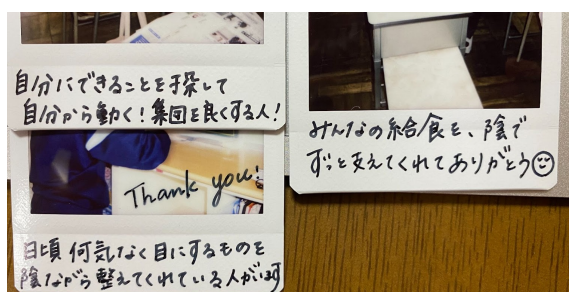
本学級は年度当初から自己肯定感の低い生徒が多く、半数近くの生徒が自分自身のことを好きではないと感じていることがアンケートから分かった。学級生活においては「自分が動かなくても誰かがやってくれる」と人任せにしてしまう場面が多々あったため、1年間を通して「自分からやってみる」→「達成感を得る」という活動を意識的に取り入れた。

手立て

成果を「見える化」する



「思いやり貯金」（詳細は実践例参照）は、学級の様子から見た課題に全員で取り組み、達成具合を自分たちでチェックするために効果的である。思いやり項目にシールを貼りながら、仲間に感謝の気持ちを伝える・伝えられることもあり、自己肯定感を高めることにも繋がった。もちろん、学級の一員である担任も参加した。



生徒たちのさりげない行動にも目を向け、その機会を逃さないようにした。様子を写真にし、コメントを書いて掲示していたが、生徒たちもこれらを見て、話のタネにしていたようである。

結果

多くの取り組みを行った2学期の開始時と終了時のアンケートからわかることは以下の通りである。

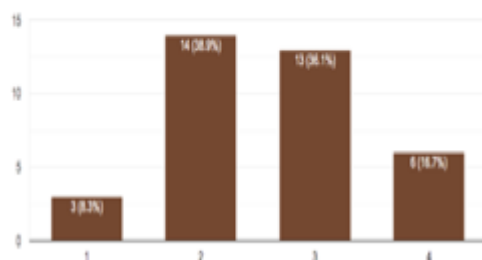
- ①自分のことが好きではないと感じる生徒は減少した。全体的に、自分のことを前向きに捉えようとしていることがわかる。

9月

12月

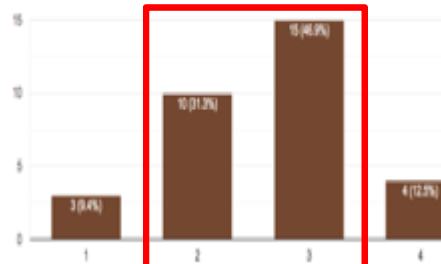
Q. 2 あなたは、じぶんのことが好きですか。

36名の回答



Q. 2 あなたは、じぶんのことが好きですか。

32名の回答



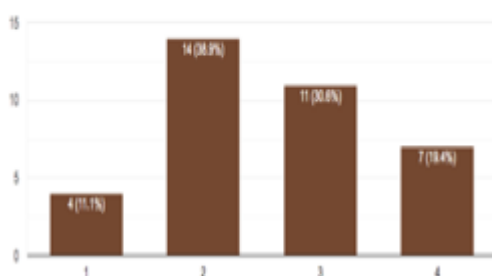
- ②結果が顕著に現れたのは、「友達やクラスのために役に立つことができていると思いますか」という項目の回答結果である。9月のアンケートでは多くの生徒が「あまりそう思わない」と回答しているのに対し、12月のアンケートでは大きく変化し、「そう思う」「少しそう思う」と回答した生徒が多くなっていることがわかる。大きな行事を成し遂げることができたと感じた生徒、係の仕事等、日常生活の小さなことを積み重ねることができたと自信を持った生徒など、その理由は様々であるが、学級での自己有用感を得たと考えられる。

9月

12月

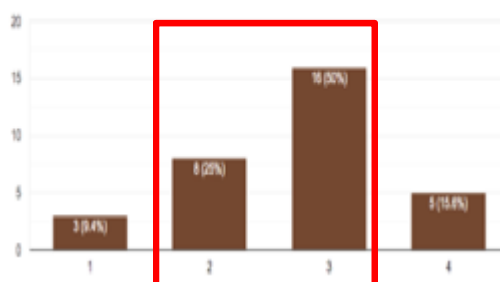
Q. 6 友達やクラスのために役に立つことができていると思いますか。

36名の回答



Q. 6 友達やクラスのために役に立つことができていると思いますか。

32名の回答



考察

卒業学年ということもあり、自分の進路を切り拓く上で困難を乗り越えた生徒もいれば、その挑戦を後押しした生徒もいる。同年齢の生徒が集まる小さな社会の中で、お互いを認め合い高め合うために、まずは自分の良さを認め、自分の力を高めることが必要である。集団の中で個を育てることは、集団をよりよくすることにも繋がっていると感じた。

先生が変われば 環境が変わる！
環境が変われば 子どもが変わる！
子どもが変われば 未来が変わる！

専門研究

国語科 専門研究部

研究主題

資質能力を育成する文学の授業づくり

上新井小学校

榎本 千裕

北野小学校

春名恵理子

指導者 大妻女子大学

教授 樺山 敏郎

担当指導主事

岡田 香代

国語科専門研究員の研究によせて

大妻女子大学 教授 樺山敏郎

本年度の専門研究員の研究主題は、「**資質・能力を育成する文学の授業づくり**」であった。文学には唯一解が存在しないために、解釈の精度を上げるための教材研究に終わりはない。教師自身は文学の教材を何度も深く読み込み、多様な解釈を実感することが第一義であり、そのことによって文学の授業の幅は広がる。

一方で、平成 29 年版小学校学習指導要領国語の改訂の趣旨に、「**依然として教材への依存度が高い**」という指摘がある。教材「**を**」学ぶことに傾斜し、教材「**で**」（を通して）何ができるようになるのかが明確でない現況がある。やはり教材は、“材”との捉えである。しかし、**材（教科書）を軽視する**ということではない。国語科の学習指導においては、教材の特性を十分に認識した上で、質の高い言語活動を通して指導事項を指導するという考え方が基本である。

平成 20 年度版学習指導要領においては、「**言語活動の充実**」が改訂の一丁目一番地とされ、国語科を中心として各教科等を横断する様々な取組が展開された。国語科で例示された言語活動は、**記録、説明、報告、紹介、感想、討論**などである。これらは各教科等や日常生活の場面、言い換えると「**実の場**」において**必要となる言語活動**である。このような点を踏まえると、文学の授業づくりにおいても、子どもたちにとって意味ある言語活動を通して多様な読みを体験させ、**教科国語の枠を越えた読書生活に生きて働く**ことに意を用いることが大切になる。

本年度、お二方の研究実践の核として、筆者が提唱する“**Learning・Mountain**”に取り組んでいただいた。「ラーニング・マウンテン」とは、「Let's Climb the Mountains of Learning」（学びの山に登ろう）の略称で、国語科の三領域における単元の学び全体を“山登り”に例え、**子どもたちが目指す頂上（ゴール）とルート（プロセス）をデザインし、見える化したものである**。これは、**コンピテンシー・ベースの国語科授業を目指し、ユニバーサル・デザインに配慮しながら、子どもと学びを創る**ねらいがある。その実際はお二方の資料を参照いただきたい。

榎本千裕先生（上新井小学校）は第 1 学年「くじらぐも」、春名恵理子先生（北野小学校）は第 5 学年「たずね人」の授業実践に取り組まれた。お二方の実践を通して様々な成果が得られた。とりわけ、「ラーニング・マウンテン」には、**教師が教えたことを子どもたちが学びたいことへ変えていく力がある**ことを実感することができた。単元の導入段階で学び全体の見通しをもち、学びの途中である各単位時間の振り返りを大切にすることで主体性が育成される。同時に、単元全体の課題の解決と目標の達成という頂上（ゴール）を目指して最後まで粘り強く、学びを調整していこうとする学びに向かう態度を培っていくことができる。

教材「**を**」読む醍醐味と同時に、教材「**で**」（を通して）何ができるようになるか（できるようになりたい）といった見通しをもち、**子どもにとって意味ある問いを大切にしながら、学びの山の頂上を目指していききたいものである**。お二方の更なる御活躍と、貴市のますますの発展を祈念して筆を置く。

研究主題「資質・能力を育成する文学の授業づくり」

専門研究員 国語科

所沢市立上新井小学校 榎本 千裕

所沢市立北野小学校 春名 恵理子

I 研究主題について

学習指導要領は、国語科の目標を「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とし、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つを示している。日々の授業では、言語活動を通して、資質・能力を育成することが求められている。しかし、授業後の児童は「教材がどんな話だったか」は答えられるが、「自分は何ができるようになったか」は答えられないことが多い。つまり、授業を通してどのような資質・能力が身に付いたかが児童にとって明確ではないということである。特に文学的な文章の学習では、児童の意識が教材の内容の理解に留まってしまう傾向にある。「活動あって学びなし」ではなく、児童が国語科の学習を通して「自分は何ができるようになったか」を自覚できるようにしたいと考え、本研究主題を設定した。

II 研究の内容と方法

1 内容

- (1) 視点1 指導事項を分析し、身につけたい資質・能力を明確化する

【手立て】

- ① 系統性を考えて指導事項を分析し、本単元で身につけたい資質・能力を明確にする。
- ② B 規準の具体的な姿を明確にし、児童に提示する。

- (2) 視点2 児童が資質・能力を自覚することにより、主体的に学習できるようにする

【手立て】

- ① 「学びのプラン」を活用することで、学習のゴールイメージを教師と児童が共有する。
- ② 「学びのプラン」を活用し、児童との話し合いにより学習計画を立てる。
- ③ 毎時間の導入部で、「学びのプラン」に基づいて課題を設定することで、学習の見通しをもつ。
- ④ 毎時間の終末部で、「学びのプラン」を使い、身につけた力を児童自ら振り返る。

←「学びのプラン」

菊池英慈・樺山敏郎・折川司・高木展郎編（2021）『資質・能力を育成する小学校国語科授業づくりと学習評価』明治図書 p.63を基に作成。

2 方法

- (1) 7月・8月に「国語科の授業に関するアンケート調査」を実施し、児童の実態を把握する。
- (2) 10月・11月に検証授業を実施する。
- (3) 11月に「国語科の授業に関するアンケート調査」を実施し、成果と課題を分析する。

III 実践事例

1 所沢市立上新井小学校 1年1組

- (1) 単元名 おもいうかべながら よもう
教材名 「くじらぐも」(光村図書)

(2) 研究主題との関わり

① 系統性については以下に示すとおりである。

一年	「はなのみち」 「おおきなかぶ」	・お話を声に出して読む。 ・繰り返しのお話を楽しむ。
	お話を読む 「やくそく」	・誰が何を言ったりしたりしたかに気をつける。 ・登場人物になったつもりで、声に出して読む。
	思い浮かべながら読む 「くじらぐも」	・登場人物がしたことや、言ったことを思い浮かべながら読む。
	好きなところを探して読む 「たぬきの糸車」	・お話には、いくつかのまとまりがある。 ・好きなところを選び書き写したり、絵をかいたりする。 ・声の大きさや読む速さを考えて、音読する。
	読んで感じたことを話す「ずっと、ずっと、大好きだよ」	・登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ・感じたことを友達と話すと、お話をもっと楽しむことができる。
二年	お話を確かめる 「ふきのとう」	・登場人物を確かめる。 ・登場人物がしたことや言ったことが分かる文章を見つける。
	あらすじをまとめる 「スイミー」	・人物がしたことや出来事を、短い言葉で書く。 ・書いたものをお話の順番につなげる。

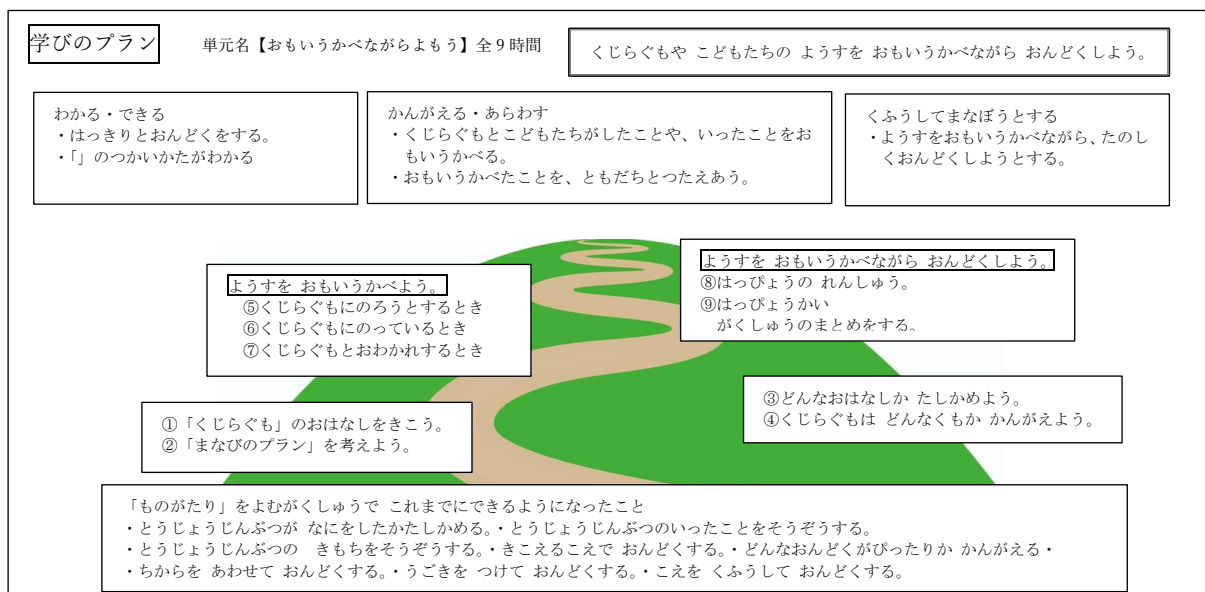
② B 規準の具体的な姿を明確にする。→指導と評価の計画に記載。

③ B 規準の具体的な姿を児童に提示する。

④ 学習のゴールイメージを教師と児童が共有する。

⑤ 学級で話し合って学習計画を作成する。

→「学びのプラン」



(3) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(1)ウ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(1)ク	・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。C(1)イ ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。C(1)エ	・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

(4) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク	・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。C(1)イ ◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ	・これまでの学習を生かして、積極的に想像を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとしている。

学習活動に即した評価規準	①会話は「」で示すことを理解し、正しく表記している。(1)ウ	①登場人物や設定を捉えている。C(1)イ	①「くじらぐも」を、想像を広げながら楽しんで読もうとしている。
	②語や文のまとまりに注意して音読している。(1)ク	②だれが何をした話か、1文にまとめている。C(1)イ ③1の場面を読んで、くじらぐもはどんな人物か考えている。C(1)イ ④くじらぐもと子どもたちのしたことや言ったことを考えている。C(1)エ ⑤物語を読んで想像したことを伝え合っている。	②くじらぐもや子どもたちのしたことや、言ったことを思い浮かべて、ワークシートに書いたり、友達と伝え合ったりしようとしている。

(5) 単元の指導と評価の計画(9時間)

次	時	学習活動	評価規準・評価方法	【B】おおむね満足できる状況
1	1	・題名から「くじらぐも」はどんなお話なのかを想像する。 ・「くじらぐも」の範読を聞く。 ・「いいな」「すきだな」と思ったところを書く。	【態】① 発言・ノート記述	
	2	・言葉を確認しながら音読をする。 ・「学びのプラン」を立てる。		・教師の範読に続いて正しく音読している。
2	3	・どんなお話か確かめる。	【思】①② 発言・ノート記述	・「登場人物」「時」「場所」を教材文から見つけている。 ・だれが何をした話か、ノートに書いている。
	4	・くじらぐもがどことなくじらか確かめる。	【思】③ 発言・ワークシート 【知】① 発言・ワークシート	・教材文から「くじらぐも」がどことなくじらかを表す言葉を見つけている。 ・「」をワークシートに正しく書いている。
	5	・くじらぐもに乗ろうとする子どもたちとくじらぐもの様子を想像して音読する。	【思】④ 発言・ワークシート	・くじらぐもと子どもたちのしたことや言ったことを具体的に考えている。
	6 本時	・くじらぐもに乗っている子どもたちの様子を想像して音読する。	【知】① 発言	・「」が誰の台詞か理解している。

	7	・くじらぐもとお別れする場面のくじらぐもと子どもたちの様子を想像して音読する。	【思】④ 発言・ワークシート 【知】① ノート	・くじらぐもと子どもたちのしたことや言ったことを具体的に考えている。 ・「」を正しく書いている
3	8 9	・想像したことを伝え合いながらグループで音読の練習をする。 ・グループで音読の発表をする。 ・発表を聞いて思ったことを書く。 ・「おもいうかべながらよもう」の学習で身に付いた力を振り返る。	【思】⑤ 発言・記述 【態】② 発言・記述	・想像したことを友達に伝えている。

(6) 本時の学習指導(本時 6 / 9 時)

① 目標

- ・かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。

〈知識及び技能〉(1) ウ

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〈思考力、判断力、表現力〉C (1) エ

② 評価規準

- ・会話は「」で示すことを理解している。【知識・理解】

- ◎くじらぐもと子どもたちのしたことや言ったことを考えている。【思考・判断・表現】

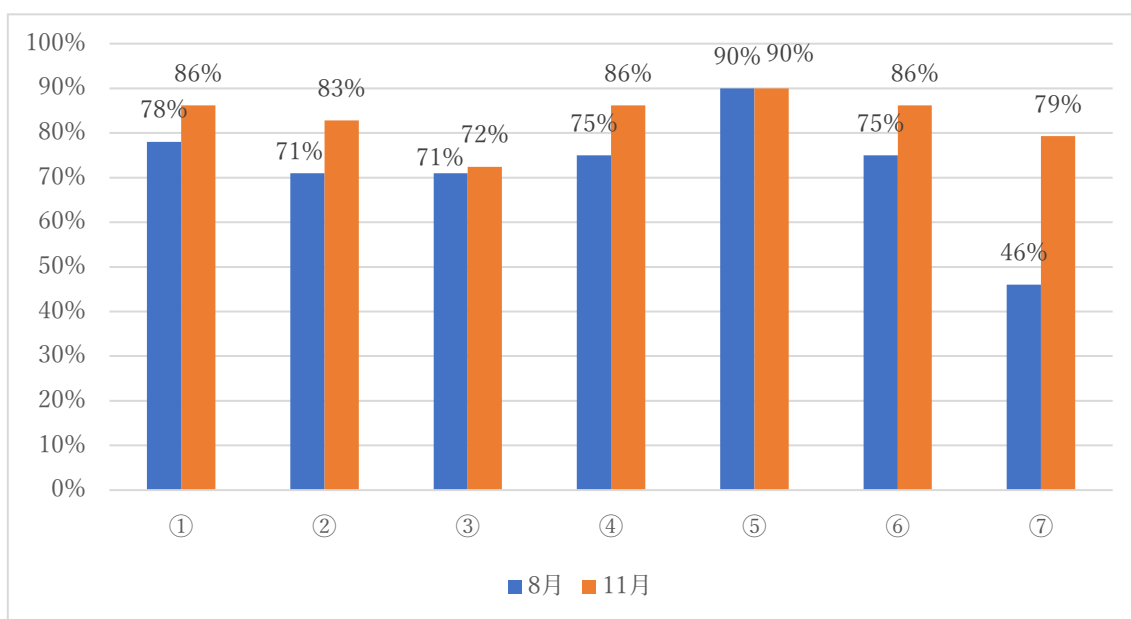
③ 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点 評価B：おおむね満足できる状況	時間
1 単元のゴールと前時までの学習を確認し、本時の課題を設定する。 くじらぐもにのっているときの ようすをおもいうかべよう。	・本時の課題	・学びのプランを確認することで、学びの目的を明確化する。 ・本時の学習の流れを確認することで見通しを持たせる。	5
2 音読をして本時で考える場面を確認する。			5
3 「」の位置と誰の台詞かを確認する。	・「」の位置 ・「」はくじらぐもの台詞	・教科書の「」に青線を引く。	3
4 くじらぐもと子どもたちのしたことや言ったことを考える。	・子どもたちの様子	・少人数で意見を交換することで、安心して発表ができるようにする。	20

①教材文や挿絵をヒントに一人で考える。 ②3人組で話し合う。 ④ワークシートに書く。 ⑤発表する。		・想像した理由を発表させることで、叙述に沿った想像ができるようにする。 ・話し合いで良いと思ったことをワークシートに書く。 ◆くじらぐもと子どもたちのしたことや言ったことを具体的に考えている。【思】C(1)エ	
4 出された意見の共通点を話し合い、学習のまとめをする。			5
子どもたちは、くじらぐもといろいろな場所に行って、楽しかった。			
5 くじらぐもと子どもたちの様子が伝わるように音読する。	・様子にあった音読		2
6 ふりかえりを書く。		・学びのプランを活用する。	5

(7) 実践の結果と指導者の指導

① アンケート調査の結果(「そう思う」「大体そう思う」と答えた人の割合)



- ①国語の学習は好きだ。
 ②授業中、進んで自分の意見や考えを伝えている。
 ③授業中、みんなの前で発表することが好きだ。
 ④友達の見解を聞いて、自分の考えと比べている。
 ⑤話し合いは好きだ。
 ⑥物語に出てくる登場人物の気持ちや様子を、考えたり話し合ったりするのが好きだ。
 ⑦単元の始めに、何のために学習するのか分かる。

- ・アンケート調査で「単元の始めに、何のために学習するのか分かる。」の項目に「そう思う」「大体そう思う」と答えた児童の割合が 46.8%から 79.3%に上昇した。単元の始めに児童と共に「学びのプラン」を作成し、ゴールイメージを共有できた成果だと考える
- ・毎時間の導入で「学びのプラン」を確認することで、本時のめあてを児童の言葉で立てる習慣がついてきた。
- ・「学びのプラン」を教室に掲示し、児童の目に入るようにしておくことで、「あと〇時間で発表だ」「明日は〇〇の場面だから、今日の宿題の音読をがんばろう」「もう〇番までできるようになったね」等、学習を振り返ったり、学習の見通しを立てたりする発言が、児童から自然に出るようになった。

②指導者の指導

- ・単元のゴールを音読発表会に設定した。そのため、本時のめあては、(音読発表会で様子が伝わるような音読をするために)「空を旅している場面をどのように音読したらよいだろう。」のように、解決すべき課題を示すとよかった。
→今後、国語の学習では、解決すべき課題をめあてとして設定する。
- ・国語科における資質・能力の育成という面では、叙述に即して想像を広げるという点が不十分であった。児童の発達段階を考慮すると、考えをワークシートに書く時間よりも、叙述を丁寧を押さえながら、話し合う時間をしっかりとる方が良かった。
→指導事項と児童の実態を踏まえ、どこに重点を置いて指導するか考える必要がある。

2 所沢市立北野小学校 第5学年1組

(1) 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

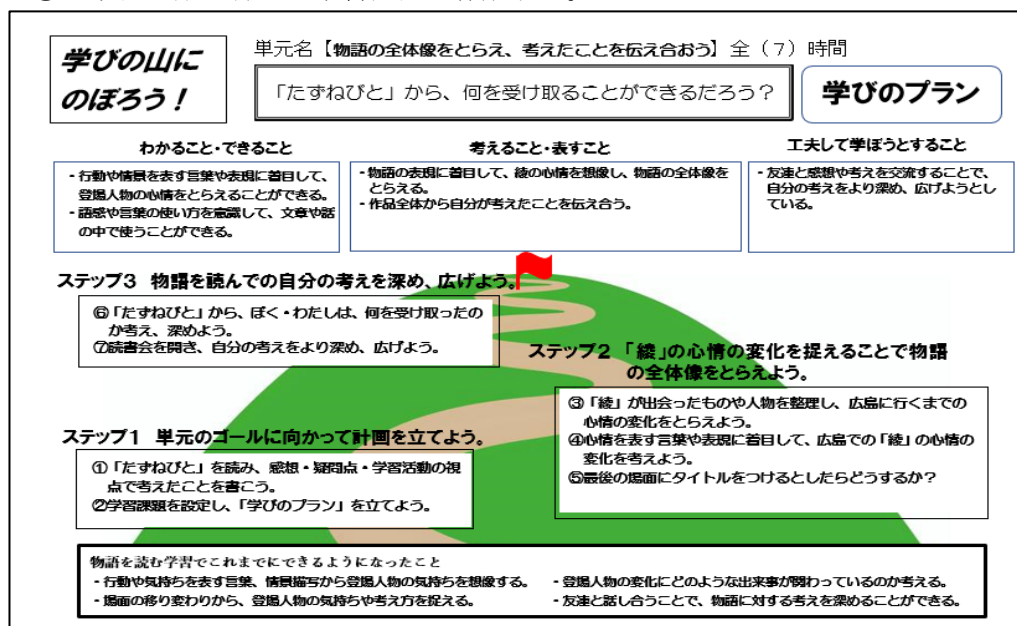
教材名 「たずねびと」(光村図書)

(2) 研究主題との関わり

① 系統性については以下に示すとおりである。

四年	話し合っ、考えを深める「ごんぎつね」	・行動や気持ちを表す言葉、情景から登場人物の気持ちを想像する。 ・自分と違う見方を知ると、考えを深めることができる。
	登場人物の変化と出来事の関係をつめる「プラタナスの木」	・場面の移り変わりを読み、登場人物の気持ちや考え方が表れている部分を見つける。 ・人物の変化に、どんな出来事がどう関わっているのかを考える。
五年	登場人物どうしの関わりを読む「なまえつけてよ」	・登場人物の会話や行動を読み、場面ごとの心情を想像することによって、登場人物どうしの関わりをつめる。出来事に着目し、登場人物の関係の変化について考える。
	物語の全体像から考えたことを伝え合う「たずねびと」	・心情の描き方や中心となる人物が会う人やもの、経験が物語においてどんな役割を持っているかなどの視点で考えたことを伝え合う。
六年	作品の世界をつめる「やまなし」	・作者の表現から、どのような作品世界が生まれているかを考える。 ・作者の生き方や、他の作品の書かれ方と関連させ、考えを深める。
	物語の読みを広げる「海の命」	・周囲の人物が、中心となる人物にどのような影響を与えたか、物語が伝えようとしていることは何かなどの視点で、読んだ人どうしで語り合うと、物語の読みが広がる。

- ② B 基準の具体的な姿を明確にする。→指導と評価の計画に記載。
- ③ B 基準の具体的な姿を児童に提示する。
- ④ 学習のゴールイメージを教師と児童が共有する。
- ⑤ 学級で話し合って学習計画を作成する。
- 「学びのプラン」



↑ 本単元「たすねびと」における「学びのプラン」構想

(3) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・思考に関わる語句の量を増やし、語句と語句関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。	・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。C(1)エ ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。C(1)オ ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。C(1)カ	・言葉がもつよさに気づくとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 (1) オ	① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。C(1)オ ③ 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。C(1)カ	① 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

(5) 単元の指導と評価の計画（7時間）

時	主な学習活動	・おおむね満足できる状況 評価規準【】 評価方法
1・2	○「たずねびと」を読み、感想・疑問点について書く。 ○単元の学習課題を設定し、「学びのプラン」を作る。	・お話を読んで思ったこと・考えたこと・感じたことなどの感想を持ち、ノートに書いている。 ・単元の学習の見通しを持つ。 <u>学びのプラン</u>工夫して学ぼうとすること 【態】観察・ノート ・初発の感想を基に、学習課題の設定や活動の計画を立てようとしているか確認する。
3	○「綾」が出会ったものや人物を整理し、広島に行くまでの「綾」の心情を捉える。	・「綾」が出会ったものや人物を見つけることができる。 ・「綾」の行動や心情描写などから、広島に行く前の「綾」の心情について考えている。→「アヤに会えるかもしれない。」と期待が高まっている「綾」の様子を捉えている。 <u>学びのプラン</u>わかること・できること【知（1）オ】観察・ノート ・登場人物の心情を捉える際に、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しているか確認する。
4	○広島についてからの「綾」の心情を捉える。	・「綾」が出会ったものや人物を見つけることができる。 ・「綾」の行動や心情描写などから、広島についてからの「綾」の心情について考えている。→展示品などから原爆による被害の恐ろしさを実感し、おばあさんとの話が「綾」に大きな影響を与えることになる様子を捉えている。 <u>学びのプラン</u>わかること・できること 【知（1）オ】観察・ノート ・登場人物の心情を捉える際に、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しているか確認する。
5	○最後の場面を読み深め、物語全体の「綾」の心情の変化を捉える。	・情景描写に注目し、「綾」の心の中に浮かんできた考え、思いを考えている。 <u>学びのプラン</u>考えること・表すこと【思C（1）エ】観察・ノート ・心情の変化などを捉えて、人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えているか確認する。
6 (本時)	○作品全体の「綾」の変化を基に、何を受け取ったのかを考える。 ○自分の考えをワークシートにまとめ、グループや全体で交流する。	・物語全体の「綾」の変わってきた気持ちや考えを捉え、そこから自分が何を考え、思ったかを書いている。 ・自分の考えを伝え、友達の考えとの共通点、相違点、よさなどの視点で考えながら交流している。 <u>学びのプラン</u>工夫して学ぼうとすること 【態】観察、ワークシート ・物語全体から伝わることを粘り強く考え、物語に対する自分の考えを伝え合おうとしている。 <u>学びのプラン</u>考えること・表すこと【思C（1）オ】観察、ワークシート ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。
7	○読書会を開き、考えを交流することで、自分の考えを深め、広げる。 ○単元の学習を振り返る。	・交流の視点を意識して、自分の考えを伝え、友達の考えを聞く。 ・単元を通して、どんなことができるようになったか考えている。 <u>学びのプラン</u>考えること・表すこと【思C（1）カ】観察、ノート ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているか確認する。 <u>学びのプラン</u>工夫して学ぼうとすること 【態】観察、ノート ・交流して考えが広がったところなどの観点で、単元全体を振り返ろうとしているか確認する。

(6) 本時の学習指導（本時 6 / 7 時）

① 目標

- ・言葉がもつよさに気づくとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。 <学びに向かう力、人間性等>
- ◎文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを深め、まとめることができる。 <思考力、判断力、表現力>C（1）オ

② 評価規準

- ・物語全体から伝わることを粘り強く考え、物語に対する自分の考えを伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
- ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えを深め、まとめている。 【思考・判断・表現】

③ 展開

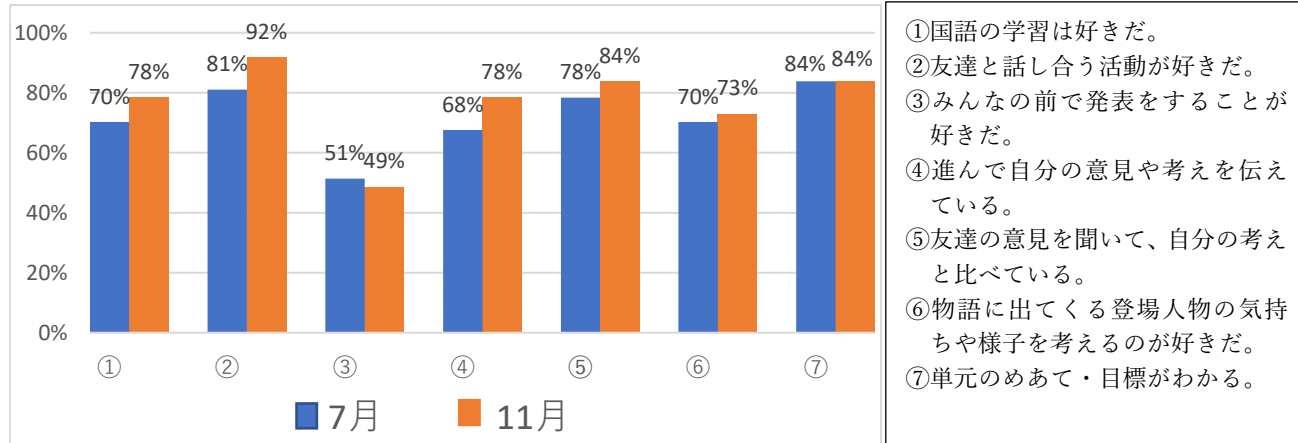
学習活動	学習内容	指導上の留意点 評価 B: おおむね満足できる状況	時間
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを設定する。	○前時までの学習を振り返る。 ○「学びのプラン」を基に、めあてを設定する。	○「学びのプラン」で、本時の学習内容を確認する。	5
「たずねびと」から、ぼく・わたしは、何を受け取ったのか考え、深めよう。			
2 前時までに学習してきた物語全体の「綾」の心情の変化を振り返る。	○作品全体を通して考える視点 ○自分の考えの書き方	○出会った様々なもの・人との出会いにより、「綾」の気持ちがよく動かされ、最後の場面に至ったことを確認する。 ○めあて達成の見通しを児童と共に考え、児童から出なかったものは提示する。	5
3 作品全体から受け取ったことについての自分の考えをワークシートに書く。			10
自分の考えを詳しく書くための視点 ◎考えの理由 ○物語の「綾」の行動、心の動き ・文章中の言葉 ・何を伝えたい話なのか ・物語と自分の体験や経験 ・他者の考えから考えたこと		評価場面1 学びのプラン 考えること・表すこと 【思】観察、ノート 文章を読んで理解したことに基づいて読み深め、自分の考えを書いている児童をBとする。 ＜C:「努力を要する」状況の児童への手立て＞ ・「綾」の気持ちの変化から考えられることや最後の場面の意味など、考える視点を与え、助言する。	
4 書いたことを発表し、どんな着眼点で書いたのか全体で共有する。	＜本時で児童が書いた考え＞ ・一つ一つの言葉や綾の行動から悲しさ・不思議さなどを感じ取ることができた。 ・綾の考える事がどんどん変わって行って、綾の夢（願い）が出てきた。 ・綾がアヤについて「知りたい。」という思いがあったから、「たずねびと」になったのだと思った。 ・戦争のおそろしさを伝えていけば、もう二度と戦争は起きないと思いました。		5

5 共通の視点のグループで、交流の視点を基に交流する。	○交流の仕方	○叙述から想像した児童の多様な考えを取り上げる。考えた理由を大切にする。 ○交流の視点を示す。	1 5
<u>交流の視点</u> ・自分の考えとの共通点や相違点 ・自分の考えのよさや友達の考えのよさ ・友達の考えを聞いて、考える。 ・疑問点を出し合う→探求・解決		評価場面2 <u>学びのプラン</u>工夫して学ぼうとすること【態】観察、ノート 叙述から捉えた人物像や物語の全体像を考え、思いや考えを自分なりに伝えている児童をBとする。 <C:「努力を要する」状況の児童への手立て> 「綾」の心情がどう変化したのか、お話を読んでどんな感想を持ったかなど、考えを出すための視点を与える、助言する。	
6 本時の学習のまとめをし、本時の学習を振り返る。次々の学習への見通しを持つ。	<本時の児童の振り返り> ・同じ視点で交流したけれども、考えていることがちがひ、びっくりした。 ・お話から受け止めたことを詳しく書くことができてよかった。 ・違う視点で書いた友達の話も聞いてみたい。	○「学びのプラン」を見て、本時の学習を振り返り、次時の学習への意欲づけをする。 ○作品全体からどんな考え方ができたか、友達との交流で考えたことなどを振り返らせる。	5

(7) 実践の結果と指導者の指導

① アンケート調査の結果

(「よくあてはまる」「どちらかという a とあてはまる」と答えた人の割合)



- ・7月の時に調査と比較し、特に「友達と話し合う活動が好きだ。」の項目で、「よくあてはまる」「どちらかという a とあてはまる」と答えた児童の割合が上昇した。ジャムボード、付箋、司会カードなどを使って話し合いの可視化をしたことが、より多くの児童が意欲的に話し合うことにつながったと考えられる。
- ・児童と共に、「学びのプラン」を作ること、国語の授業の充実感が高まった。児童が、学習を自分事として考えるようになったり、単元の目標を意識して学んだりすることができるようになった。また、教師にとっても、効果的であったと感じている。単元の目標を意識した本時のめあてや課題、学習活動を計画することができた。
- ・授業本時の課題が、読者主体のものになっていたことがよかった。課題を「物語から何を受け取ったか。」とすることで、児童は、読み取った「綾」の心情や物語の全体像から自分が考えたことに迫ることができた。

② 指導者の指導

- ・「学びのプラン」を児童と一緒に作って学習を進めているが、まだまだ授業が教師主導となっている部分が多い。
 - スクルトクトを使った意見の共有や、付箋・ホワイトボードを使って話し合いを可視化するなど、児童の意見が授業でいかされる経験を多くさせ、児童が児童から学ぶことができる時間を多く作っていきたい。
- ・児童が自分の考えをどう書けていけばよいのかが不明確さがあつたため、授業内での適切に評価をすることや児童の意見を適切に取り上げることが難しくなってしまった。
 - 自分の考えを書く活動でのB規準を満たすために必要な条件を考えておく必要がある。今回であれば、「条件①文章の一部を引用したり、要約したりすること。条件②自分の知識経験を取り入れること。」などを児童に提示するとよい。

IV 成果と課題

1 研究の成果

- (1) 単元の学習で身に付けるべき資質・能力が身に付くような教材・学習計画づくりを教師が意識することができた。教師の物語の読みを教える授業になりそうなところを、単元で身につけるべき力は何かを明確にすることで、資質・能力の育成を目指した授業づくりにつながった。
- (2) 単元で学ばせたいことを児童が進んで大事にするようになった。児童から、物語を読む時・話し合う時に大事にしたいことの意見が出たり、学習でどんな力がついたかをふりかえって次の学習への意欲を持ったりすることができるようになった。
- (3) 「学びのプラン」を作る経験を重ねるほど、児童の学習への意欲が高まり、知識・技能の達成度を感じることができるようになった。学習のふりかえりにおいて自分の成長や課題に注目し、次の学習につなげる児童の姿や叙述をもとに自分の考えを書くことができる児童の姿が見られた。
- (4) アンケート調査で、「国語が好きだ。」「進んで自分の意見や考えを伝えている。」と回答している児童が増えた。教師が、身につけさせたい資質・能力を意識して授業ができたことで、児童一人一人に「どんなことが身についたか。」「次はどのようにして学んでいきたいか。」といった意識が生まれ、より主体的な学びにつながったからだと考えられる。

2 研究の課題

- (1) 児童が自分の考えを表現するのに、物語の叙述からどう考えたのか、物語の全体像からどう考えたのか、根拠を明確にできるように指導したい。言葉を大事にして授業をすることが、資質・能力の育成につながると考える。
- (2) 国語科におけるB規準を明確にすることに、改めて難しさを感じた。読むことを通した書く場面・話す場面を適切に評価、指導するために、目標を達成できる条件を教師のほうで明らかにするとともに、児童にも示すことが考えられる。

V 引用・参考文献

菊池英慈・樺山敏郎・折川司・高木展郎編（2021）『資質・能力を育成する 小学校国語科授業づくりと学習評価』明治図書

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

専門研究

社会科 専門研究部

研究主題

深い学びを目指した指導法の工夫

西富小学校

成田 雅弥

向陽中学校

市川 智弘

指導者 埼玉大学

教授 桐谷 正信

担当指導主事

齋木修二郎